

規格委員会

氏名	所属
雨宮純子	一般財団法人 日本食品分析センター
仲尾綾	大塚製薬株式会社
林紳一郎	尾西食品株式会社
垣原登志子	愛媛大学
笠岡（坪山） 宜代	独立行政法人国立健康・栄養研究所
須藤紀子	お茶の水女子大学大学院
澤田清志	凸版印刷株式会社
中沢孝	宇宙航空研究開発機構
藤村忍	新潟大学
別府茂	ホリカフーズ株式会社
守茂昭	東京駅周辺防災隣組、都市防災研究所
守真弓	NPO法人高度情報通信都市・計画シンクタンク会議

規格委員会の開催

第 1 回	2014年 5月 26日
第 2 回	2014年 7月 11日
第 3 回	2014年 9月 5日
第 4 回	2014年 9月 30日
第 5 回	2014年 11月 18日
第 6 回	2014年 12月 17日

論点1： 災害時の価値とは

災害発生前



災害発生後

- * 保存期間
- * 保管スペース
- * 活用方法
- * 価格

- * 開封してすぐに食べることができる
- * 被災者のニーズに配慮
- * 調理済み
- * 食器が不要
- * おいしい(普段と同じ)
- * 温かい
- * 個食パック
- * 携帯性

論点2：何時 役立つのか

① 発災後～○日間

自助

② ○日後～

救援物資

③ ○週間後～○カ月

共助
炊き出し

論点3：どのような時 役立つのか

災害食の選択				熱源						
				第一 ステージ		第二 ステージ		第三 ステージ		
				なし		カセット コンロ等		電気 復旧	都市ガス 復旧	
水	飲料水なし									
	ペットボトル	飲料用		クラッカー等						
		注水用								
	給水車	調理用	注湯用					アルファ米等 乾燥食品		
			湯煎用					パックごはん レトルト食品		
		調理用						乾麺、無洗米		
	水道復旧	洗浄用	食材・ 調理器具 用							
										米、野菜

災害時の食は誰が何を備えるか

		活動・生活	自助・公助
災害対応 従事者	自治体・医療者 ライフライン企業 BCP企業、住民	避難所外	
		避難所	内閣府(防災担当) 避難所の取組指針 平成25年8月
住民			
要配慮者	住民	自宅	農林水産省 家庭用備蓄ガイドライン 平成26年2月
		入院・入所	病院・施設

論点4: 誰の役に立つのか

	被災者	活動・生活	自助	共助	公助
災害対応 従事者	自治体・医療者 ライフライン企業 BCP企業	職場・ 現場		→ 	
	住民	避難所外		→ 	
住民		避難所		→ 	
		自宅		→ 	
要配慮者	住民				
	入院・入所	病院・施設		→ 	

論点5：賞味期間の長さと同立ち度

長いほうが良い

1. 要配慮者向けの食品には長くできないものが多い。
2. 被災地で役立つ食品は賞味期間の長い食品だけではない